

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この話の山は、使役「使（～をして…しむ）」と願望「願はくは～ん」、そして二人の食客の対比です。

あらすじ＝秦の昭王に捕らえられた孟嘗君は、王の寵姫（幸姫）に取りなしを頼ませる。姫は見返りに狐白裘を求めるが、その品はすでに昭王へ献上済みだった。そこで犬のように忍び込むのが得意な食客が秦の蔵から狐白裘を盗み出し、姫の口添えて孟嘗君は釈放される。夜半、函谷関まで逃げるが、関所には「鶏が鳴くまで旅人を通さない」決まりがあった。鶏の鳴きまねが得意な食客が鳴くと本物の鶏もいっせいに鳴き、門が開いて一行は脱出する。追っ手は案の定やって来たが、間に合わなかった。ここから「鶏鳴狗盗」という言葉が生まれた。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

孟嘗君（まうしやうくん）、^①人をして昭王（せうわう）の幸姫（かうき）に抵（いた）りて解（と）かんことを求めしむ。姫曰（い）はく、「^②願はくは君の狐白裘（こはくきう）を得（え）ん。」と。^③蓋（けだ）し孟嘗君、嘗（かつ）て以（もつ）て昭王に献（けん）じ、^④他の裘（きう）無し。

^⑤客に能（よ）く狗盗（くたう）を為（な）す者有り。秦（しん）の蔵中（ざうちゆう）に入り、裘を取りて以て姫に献ず。姫為（ため）に言ひ、^⑦積（ゆる）さるるを得たり。

^⑧即（すなは）ち馳（は）せ去り、姓名を變じ、夜半（やはん）に^⑨函谷関（かんこくわん）に至る。^⑩関の法、鶏（にはとり）鳴きて^⑪方（まさ）に客を出だす。秦王の後悔して^⑫之（これ）を追はんことを恐る。^⑬客に能く鶏鳴（けいめい）を為す者有り。鶏（にはとり）^⑭尽（ことごと）く鳴く。遂（つひ）に^⑮伝（でん）を發して出づ。食頃（しよくけい）にして、追ふ者果たして至るも、及ばず。

語注 孟嘗君＝齊（せい）の公子。多くの食客（しよつかく）をかかえたことで知られる。昭王＝秦の王。招いた孟嘗君を、のちに捕らえた。幸姫＝王に寵愛（ちようあい）されている側女（そばめ）。抵る＝行きつく。たずねて行く。狐白裘＝狐の脇の下の白い毛だけを集めて作った、最高級の皮ごころも。裘＝毛皮の衣。客＝この文章では二つの意味で出てくる。「鶏鳴きて方（まさ）に客を出だす」の「客」は、関所を通る旅人・通行人のこと。⑤⑬の「客」はこれとは別の意味なので、本文から考えること。狗盗＝犬のうに忍び込んで盗みをはたらくこと。また、その者。為に＝～のために。関の法＝関所の決まり。食頃＝食事をするほどのわずかな時間。※この場面は、秦の昭王に捕らえられた孟嘗君が、脱出するまでのいきさつである。

(1) ③ 「蓋(けだ)し」の、ここでの意味を書け。

(2) ⑤ 「客に能(よ)く狗盜(くたう)を為(な)す者有り」の「能く」の意味を書け。

(3) ⑧ 「即(すなは)ち」の、ここでの意味を書け。

(4) ⑨ 「函谷関(かんこくくわん)」とはどのようなものか、簡潔に書け。

(5) ⑪ 「方(まさ)に」の、ここでの意味を書け。

(6) ⑭ 「伝(でん)」とは何か。

(7) ⑮ 「追ふ者果たして至るも、及ばず」の「果たして」の意味を書け。

B 句法 (8～13)

(8) ① 「人をして昭王(せうわう)の幸姫(かうき)に抵(いた)りて解(と)かんことを求めしむ」に使われている句法の名を書け。また、白文でその働きを示す漢字一字を書け。

(9) ① 「人をして昭王(せうわう)の幸姫(かうき)に抵(いた)りて解(と)かんことを求めしむ」の白文で使われている「使」と同じく、使役を表す漢字を、ほかに二つ挙げよ。

(10) ② 「願はくは君の狐白裘を得ん」の「願はくはくん」は何を表す言い方か。意味もそえて書け。

(11) ⑤ 「客に能(よ)く狗盜(くたう)を為(な)す者有り」の「有く者」の形は、どう読み、何を表すか。

(12) ⑦ 「釈(ゆる)さるるを得たり」の「るる」は、文法的にどのような語か。働きもそえて書け。

(13) ⑮ 「追ふ者果たして至るも、及ばず」の「も」は、どのような意味を表すか。

C 主語・指す内容 (14～17)

(14) ⑤ 「客に能(よ)く狗盗(くたう)を為(な)す者有り」の「客」とは、どういう人々のことか。

(15) ⑥ 「姫為(ため)に言ひ」とあるが、姫は誰のために、誰に対して口添えをしたのか。

(16) ⑫ 「之(これ)を追はんことを恐る」の「之」は誰を指すか。また、追おうとするのは誰か。

(17) ⑫ 「之(これ)を追はんことを恐る」の「恐る」の主語は誰か。

D 口語訳 (18～21)

(18) ① 「人をして昭王(せうわう)の幸姫(かうき)に抵(いた)りて解(と)かんことを求めしむ」を口語訳せよ。

(19) ② 「願はくは君の狐白裘を得ん」を口語訳せよ。

(20) ⑩・⑪を含む「関の法、鶏(にはとり)鳴きて方(まさ)に客を出だす」を口語訳せよ。

(21) ⑮ 「追ふ者果たして至るも、及ばず」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ④ 「他の裘（きう）無し」とあるが、孟嘗君の手もとに狐白裘が残っていなかったのはなぜか。本文にそくして書け。

(23) ⑤ 「客に能（よ）く狗盗（くたう）を為（な）す者有り」の食客がしたことを、三十字以内で書け。

(24) ⑩ 「関の法」は、夜半に函谷関に着いた孟嘗君たちにとって、なぜ都合が悪かったのか。四十字以内で書け。

(25) ⑬ 「客に能く鶏鳴（けいめい）を為す者有り」とあるが、この食客の鳴きまねで関所の門が開いたのはなぜか。四十字以内で書け。

F 文学史・故事 (26～28)

(26) この文章の出典の書名と作者、および収められている列伝の名を書け。

(27) 故事成語「鶏鳴狗盗」の意味を、二十五字以内で書け。

(28) 孟嘗君は、当時とくに有力だった四人の公子の一人に数えられる。この四人をまとめて何と呼ぶか。また、ほかの三人のうち一人の名を挙げよ。

【テスト直前チェック】この三つ ①「使」は使役。「使 A B」＝「AをしてB（せ）しむ」＝「AにBさせる」。①は書き下しでも句法名でも問われます。使・令・教・遣の四字をセットで確認しておきましょう。②「方に」は方角ではない。①「鶏鳴きて方に客を出だす」の「方に」は「～になって初めて」。この関所の決まりを逆手に取ったのが、鶏の鳴きまねです。③狗盗＝釈放、鶏鳴＝脱出。狐白裘を盗んだ食客が釈放を、鳴きまねの食客が函谷関からの脱出を実現しました。この対比が記述問題の的になります。